

企業名： 三菱製紙（3864）

レポート名： コーポレートレポート2021 考察

1. この会社が目指す姿が理解できるか

現在、新型コロナウイルス感染拡大および情報社会のデジタル化により、紙媒体の需要が減少し製紙業界は大きな打撃を受けている。三菱製紙も同様に主要なセグメントである洋紙事業とイメージング事業において営業利益を減少させている。そこで、三菱製紙は従来の印刷・情報用紙主体の事業構造からの転換を図り、事業基盤の強化と多様化を目指すべく、新中期経営戦略で三つの重点戦略を挙げている。

一つ目は、王子グループとのアライアンスによる強固な経営基盤の確立である。具体的には、ノーカーボン紙事業を集約することで市場シェア拡大と生産性の向上による収益性の改善を図るとともに、プレスボード事業の事業譲渡による収益向上を図っている。また、家庭紙合弁事業において、既にブランドを確立している東北地方を基盤に関東地区へ販売網を伸長させ、2020年度には商品ラインナップを拡充した。

二つ目は、既存事業の再構築と充実である。グループ会社の合併統合を通して、印刷感材事業では業務の効率化と国内事業の維持、アジアでの事業拡大を主軸とした事業安定図っている。インクジェット事業では、高級フォト用紙やピクトリコブランドの充実を図り、ブルーフ・製版・ポスター等の分野では相互協力による全体の販売拡大を目指している。また、研究開発拠点の再編で開発の加速化と収益への貢献を図っている。

三つ目は、新たな収益の柱の育成による事業基盤の多様化である。事業の変革を担う商品として、バッテリーセパレーターやドライフィルムレジスト、メルトブロー乾式不織布、不織布マスク、抗ウイルス機能性フィルターや全熱交換素子といったエアフィルターの開発・販売に力を入れている。

以上三つの重点戦略により、三菱製紙は事業基盤の強化と多様化を進めさらなる発展を目指すとともに、企業価値の向上に努めていると考えられる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

三菱製紙の競争優位性として、二点考えられる。

一点目は、王子グループとのアライアンスである。これにより、三菱製紙は業界最大手の王子グループと競合する機会が減り、市場シェアの拡大と確保を図ることができる。

二点目は、研究開発が充実している点である。これにより、三菱製紙は既存事業からデジタル社会に対応した新しく高度な商品まで幅広く探求でき、適切で選ばれる商品を提供することができる。また、新規分野においては特許や商標によって競争優位性を保持している。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

上記の競争優位性が持続するかどうかは、顧客の信頼を保持することに依拠すると考える。すなわちコーポレートガバナンスと環境対策への取り組みにかかっていると考える。この二点に関して、三菱製紙は十分な取り組みをしているため、競争優位性に持続性があると考えられる。

コーポレートガバナンスに関しては、コンプライアンスとリスクマネジメントを評価したい。三菱製紙は継続的な研修により、役職員のコンプライアンスに対する意識を高め社会からの信頼を得るとともにそれに答える努力を行っている。また、リスクマネジメント委員会を設置し200件を超えるリスクに対して組織横断的に監視を行っているほか、危機管理対応マニュアルを定め実効性のある危機管理体制を構築し、信頼の確保に積極的に取り組んでいる。

環境対策に関しては、環境憲章で基本理念を定めその実現のために、ISO14001認証を取得して環境パフォーマンスの持続的向上に取り組むとともに、その実効性を担保する環境管理体制を構築している。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

三菱製紙が良好な労働環境の維持に努めている点は評価できるが、同報告書から自分が就職したときのイメージがつかない、つまり社員の視点が不明であるため、三菱製紙への就職で私自身の人的資本の価値が向上すると断言することはできない。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

同報告書には俯瞰の視点で見た会社の概況が多く述べられているが、4. で述べた通り、同報告書には社員の視点が少ないため、この点に関して改善が見込める。

例えば、社員と密接に関係する労働環境について述べる際、社員向けのアンケート結果を公表するとともに、社員の主観的感想を挿入することが考えられる。これにより、社員ではないステークホルダーが三菱製紙の実情を把握するのに役立つのではないかと、考える。ただし、客観性に依拠したデータを掲載し俯瞰的把握も必要であるため、それらを両立した報告書となればさらなる改善が見込められると思われる。